

社団法人 長崎青年協会会報

新春号

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION



社団法人
長崎青年協会憲章

我々は会員の団結と

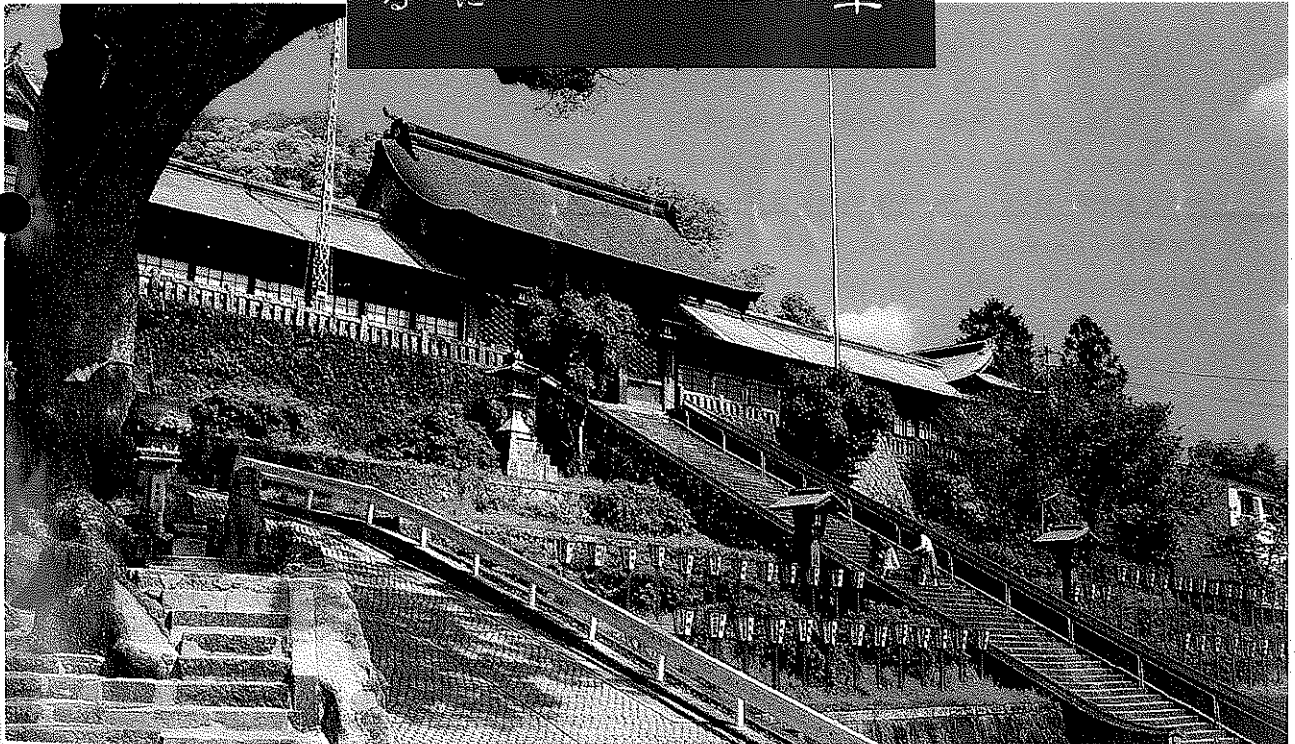
相互扶助の精神の基に

自己の建設と

会員の親睦を図り

もって地域社会の発展に

寄与する事を目的とする

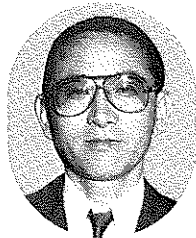


諏訪神社

謹賀新年

会長挨拶

会長 野上 林八郎



新年おめでとうございます。

会員の皆様にはすがすがしい気持ちで新年をお迎えのことと思います。

昨年は昭和から平成へと年号も改り、時代の流れを改めて感じさせられた一年でした。世界情勢も激しい変動をみせました。東欧各国の政治改革、米ソ首脳のマルタ会談等、予想を超える急進歩でした。国内ではリクルート事件、消費税と“平成”とは程遠い世相でした。

さて、青年協会第21年度事業も、あと3ヶ月を残すのみとなり、一息ついた感があります。本年度の事業につきましては、旅博協会との関連上、例年以上に大規模なものとなり、会員の皆様には大変なご苦勞をおかけしましたが、甚大なご協力のおかげでどの事業も盛会のうちに消化でき、心から感謝申し上げます。

残る期間を内部充実に努め、もっともっと新入会員の間に協会憲章を浸透させたいと思います。全体研修への参加も合わせ、皆様の一層のご協力を切にお願い申し上げます。

新年にあたって



桑田 敬悟

年男と言われて「そんな年になったのか!」と改めて思い知らされました。

社会人になってからの17年間色々なことがありました。実母の死去、6年間勤めた会社の倒産、転職、結婚、出産、転職、自営、そして今現在、父、妻、2児と5人暮らしでなんとか生きています。結婚後にも無職の時もありましたが、あまり愚痴も言わなかった妻に、改めて感謝しなければと、おもっています。

年男としての抱負は特に抱いていませんが、一年間の目標を明確にし、一日一日が充実感のある一日であるように、今まで過ごした36年間を無駄にしないためにも日々を大事に生きたいと思っています。

最後に、青年協会に入会して6年、色々な人との出会いを感謝し、又、色々な人との出会いをしていきたいと思っています。



森 保博

新年明けましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様

方のご協力で各事業を無事消化する事が出来、大変ありがとうございました。今年も家庭、仕事、青年協会活動と今迄以上に、「~しよう」という意欲をもち、積極的に行動に移し、目標達成までがんばりぬく持久性を宿して行きたいと思っています。私はすべての行動はキャッチボールだと思います。投げられたボールは、必ず投げ返す。そのボールが速かったり、遅かったりして、その時の気のもちようで変化すると思います。1人でも多くの人達とキャッチボールをして、積極的に行動を起していく1年にしていきたいと思っています。



沼里 勉

早いもので、30代も半ばを過ぎ、3回目の年男を迎えて、人生の折り返し地点に立ったことに気付かされます。増々仕事や家庭共に忙しくなってきますが、「挑戦」と「行動」を本年のモットーとして今年一年を努力していきたいと考えてます。

又、青年協会に入会6年目、ふり返ってみますと、入会したての頃は自分よりも年長の方々が多く、色々と影響を受けたことが印象として残っています。

私自身そのころの先輩達の年令に達し、若い会員の方々に負けないよう自分自身をみがいていかないといけないと痛切に感じております。今後共よろしくお願い致します。



船津 信三郎

新年あけましておめでとうございます。

まだまだ若いと思っているうちに、今年で36才。中年の仲間入りをしたかと思うとゾッとします。昨年は私事ですが、年末間近になって2人の従業員の事故が相つぎ、ものすごい忙しさでした。何事も1つでも歯車が欠けてしまうとすべてがうまく回っていきませんね。この事は協会活動にも言えることだと思います。会員ひとりひとりが1つの歯車であり、すべてがかみあって回ってこそすばらしい協会になっていくと思います。今年も昨年同様仕事の方は忙しいと思いますが、協会活動の方も頑張っていきたいと思います。



山下 正

私が青年協会に入会するように森委員長から進められ入会したのが9ヶ月前になります。

正直言って入会するのは、あまり気が進みませんでした。只一つ、矢上の田舎者で終りたくない

と言う事から入会した訳です。

入会して最初の頃は「こんな事をして何になるんだ」と考える事も多々ありました。多くの仲間と一緒に話をしたり、行事に参加しているうちに、自分自身の姿をとらえる事が出来、社会の中での立場、考え方を持てるような気がします。これらは、より多くの先輩、あるいは同世代の仲間達の意見、行動等を身近に自分が直接肌で感じ、見て聞く事が出来たからではなからうか。

私は、この青年協会活動の中で一番大事な事は、皆の協力ではないかと思えます。色々と違った職業の人が集まっていますから、仕事の終る時間も違いますし一人一人考えている事が違います。遂に言えば、それがあから意味があるのではなからうか。私も真知目な方とは言えませんが、私なりに考えて見ました。仕事が忙しくて行けない事もありましようが、やはり何と言っても一人一人が青年協会の中で自分の役割りと言うものを自覚していないせいではないでしょうか。余りにも他人まかせの考えを持った人が多いせいではないでしょうか。自分がやらなくても誰かがやってくれる、俺には関係ないんだと言うふうに受身的な考えを持った人が多いのではないのでしょうか。

私もそうでした。でも、ここで一言言いたい。「いつまでも受身ではダメなんだ、もっと積極的にやっていかなければ協会の活動は、うまくやて行けないんだ」と。皆さんはたして委員長や数名の会員でやっていけるでしょうか。一人の人間では何も出来ないけど、皆が集まれば何でも出来るんだ。そうです、この青年協会では、特にこの事が言えるのではないのでしょうか。

又、皆さんも全員で集まって全員でなした喜びを今迄、幾度か体験されてこられた事だと思えます。その喜びは一人で喜ぶ時よりも数倍の喜びではなかったかと思えます。

私も入会させてもらった以上は、青年協会の一員として自分の出来る限り努力、協力していろいろな行事等についても参加したいと思っております。

まだ判らない事が沢山ありますのでよろしく御指導下さいますようお願い致します。



合 六 忠

としおとこにあたり抱負を一筆したためさせて頂き候。同じ馬であれば、残り多き余生を名馬の如く歩んで行きたいものだ。牧歌的な環境の中で「ただ走る」という一芸で手厚く保護され、子孫づくりまで相手方から頼まれ尚かつ代賞まで頂くという How Wonderful か!

いざかえるみるに24才でホワイトカラー、36才でDark ホワイトカラー! (毎日朝から豆腐の事ばかり)。

人里離れた地区で意気盛んな年頃を費すと考えると果てしなく自閉症になる今日(こんにち)です。

1990年、光輝く前途たれ!



松 田 広 志

「(株)マンション販売長崎」と言う会社を始めて、やっと5年、いや、もう5年と言うべきか。始めの頃は売上がのびず、従業員の給与をやっと支給するという月もあった。それが、今では懐かしい気さえする。去年で売上も人並みの不動産屋ぐらいできたので自己満足しているのであるが、さあ今年も「昨年度売上の150%目標」と普通の経営者なら思うだろうし、また私も去年はそう思った。が今年も昨年度売上の2倍にしたいまた不可能ではない数字なのである。去年は中古マンションの仲介のほか、新築分譲マンション24戸の販売提携があったが、今年は青山で大手マンションメーカーの、新築分譲マンション(60数戸/総額約13億円)の販売提携が待っているのです。我が社にとって、私にとって、マンションが売れるか売れないか、乗るか反るかの一大転機になるのです。今年36才の

1月臨時総会案内

日時：平成2年1月22日(月) 午後6:30

場所：ホテルニュー長崎

◇議事◇ 次年度理事承認の件、その他

年男、その年に人生でも数少ないチャンスの年、男としての勝負の年になるのです。今年はやるぞ!



井 上 章

「知る者は語らず、知らぬ者は語る」これは私が昨年の年頭に知った言葉です。

知る為に努力をする。知れば人は語らなくなる。実に奥の深い言葉に思えます。

毎日の馴れ合いの生活の中で、何げない生活をしていては、やはり何も生まれる事はないでしょうし、心の喜びというものとは、ほど遠い存在となるみたいです。

私の中にある新しい扉を開ける為にも、活動、行動の中でしか見つけられない「何か」を見つける為に、年頭にあたり、昨年の先達の言葉のパラドックスの中にまだ居ますが、ただ焦るのではなく、これからは静かに、じっくりと考えていこうと思います。新しい年をむかえて。



振 角 宗 広

私も63年4月に青年協会に入会し、満2年になろうとしています。この2年間、総会、例会、委員会そして行事等、多くの事業がありましたが、今のところ半分程しか参加できませんでした。

時間の都合で、すべての事業には参加できませんでしたが、青年協会の精神はある程度理解できた様に思います。今の日本の社会は、時間に追われ、そして時間に振り回されている感が強いのですが、もっと自分自身余ゆを持ち、他人にももっと目を向け、思いやりのある人間になりたいと思います。今年は私自身にとって結婚という、大きな節目を向かえます。自由きままに生きてきた私ですが、これからは遊びも程々にして、仕事に家庭サービスに、そして青年協会の活動にも、精一杯頑張ろうという決意で一年間やっていこうと思います。

日本のお正月

時代が変わり、生活様式が変わったとは言え、日本人にとって正月迎えは、心身共に引き締まるのを覚える荘厳な儀式と言えます。

そこでお正月にちなんだ「正月飾り（門松）」「鏡餅」「お屠蘇」「お雑煮」「おせち料理（お重）」「七種粥」のそのいわれとときたりについて記してみました。

●門松●

正月に各家を訪れる歳神様の降臨を迎えるためのしつらえです。松竹ともにわが家の門口を清め、新年を祝う気持ちをあらわすものですが、その飾り方、使い方などは地方によって違い、また年々簡略化されてきています。門松の起こりは中国から渡ってきたという説と日本古来のものという二説があります。前者は「史記」に「松柏を百木文長となし、門閭を守らしむ」とあり、後者は神代以来神事の際に榊や小竹葉(笹)を捧げ門に立てる慣習があったのが、松に変わったものだとしています。

●鏡餅●

平安朝頃から始まり、鏡のように円形のところからこの名が起りました。二個を重ねてひと重ねとし、日月を表すとも、一年の年を表し、めでたく年を重ねるともいわれます。本来、丸い餅だけを飾り供えたものですが、新年のめでたい飾りものである“蓬萊飾り”と組み合わせさせて、今のような華やかな床の間飾りとしての鏡餅ができあがりました。

●お屠蘇●

一年中の邪気を払い無病息災を願ってお屠蘇の祝いをします。平安朝の嵯峨天皇の御代に、中国から伝わった風習といわれ、酒やみりん、あるいはそれを混ぜた中に、屠蘇散をひたして作ります。屠蘇散は、桂皮、桔梗、白朮、防風、山椒などが調合されています。いずれも漢方薬の一種で身体によく、お正月料理でもたれた胃を助ける効果があります。

●お雑煮●

お伝えものをいろいろ混ぜて煮たことから始まりました。年神を祭る年棚にあげた餅、その他の食べものをおろす日がもともと雑煮の日なのです。正月四日が「棚おろし」の日と呼ばれて、この日初めて雑煮を食べるならわしもありました。お雑煮も地方によって違ってきます。また家々において独特なものもあるそうです。

●おせち料理(お重)●

お重は四段あるいは五段重が正式です。一の重には口取り風、二の重には焼きものを中心に盛り、三の重は酢のものなど生ものを中心に、与の重は煮ものです。「与の重」は本来「四の重」でしょうが四が「死」に通ずるところから嫌ったものです。盛られた品々も、奇数を好み、「三」「五」といった具合に盛ります。積み重ねて上から一の重、二の重……となり五の重がある場合は田作り、かずのこの屠蘇肴を盛ります。

●七種粥●

正月七日に七種粥を食べる習慣は古く平安時代延喜の頃に始まったといえます。七種類の若菜を羹にして食べると万病を除き、邪気を除くと考えられ、宮廷貴族の間に行われたこの行事は、近年には庶民の間に広がり現在に至っています。お正月から何かと食べすぎがちで胃も疲れていますから、消化のよい七種粥を食べるのは理にかなった素晴らしいしきたりといえるでしょう。

いろいろ調べてみますと、それぞれに深い意味と習慣があったことに気がつきました。新しい年を迎えた今日、日本人として心を引き締めて、希望ある一年の始まりにしたいものです。

田川(清)

